

## 2012 韓国社会福祉学会春季学術大会報告

副会長・国際学術交流促進委員会委員長 野口 定久（日本福祉大学大学院）

2012年4月27日、28日の両日にわたり、韓国社会福祉学会が昨年と同様に忠清北道清原郡五松団地韓国福祉人力開発院で開かれた。日本からの参加は、役員・理事が2名（白澤政和会長、野口副会長）、そして韓日学術交流シンポジウムのシンポジスト2名（大塩まゆみ会員、木原活信会員）、自由研究発表3組（5名）であった。

4月26日（前日）に日本代表団公式歓迎懇親会が MONTOUR レストランで催され、白種萬（会長）、曹興植（次期会長）、洪キョンジュン（次期国際交流委員長）、金淵明（国際交流委員長）、李ソヨン（事務局総務担当）各氏の心温まる歓迎を受けた。4月27日（第1日目）は、韓国社会福祉学会の開幕式に参加した。白種萬会長（全北大学）の挨拶の中で、今回の東日本大震災のお見舞いと復興への協力・支援の言葉をいただいた。白澤会長が日本側を代表して東日本大震災の復旧・復興過程におけるソーシャルワーク支援の現状報告がなされ、韓国よりの支援への感謝と今後の社会福祉学会の役割、取り組みの方向について考え方を示した。その後、韓国福祉人力開発院において日韓社会福祉学会役員定期集會をもち、①2012年度日本社会福祉学会秋季大会（関西学院大学）国際シンポジウムへの参加要請、②出版企画－2011年・12年のシンポジウム（4回）をとおして発表したテーマと討論の内容をあつめ、2013年に、『日韓社会福祉比較研究叢書』（仮題）を日韓両国において出版、あるいは報告書として刊行、③2013年春～2014年秋日韓シンポジウムのテーマの確認（テーマ：新しいリスクに対応する社会福祉の課題と展望）及び中国社会福祉学会との交流（2012年7月14日－15日：社会福祉制度革新：政府の責任と社会組織の責任）について意見交換がなされた。

4月27日（第2日目）のシンポジウムは、「多様性と社会福祉－家族構造の変化と社会福祉の対応」をテーマに金淵明（韓国社会福祉学会アジア学術交流理事、中央大学）教授の司会のもとでシンポジウムが行われた。主題発表1では、柳妍圭氏（ソウル神学大学社会福祉学科教授）が「韓国家族構造の変化と社会福祉政策の対応：家族機能の分化と脱家族化」、大塩まゆみ氏は「日本家族政策の動向と研究課題」のテーマで、主として子育てと介護の社会化をめぐる、家族の福祉に関わる問題を解決するための家族政策について報告された。主題発表2は、金妍秀氏（白石大学社会福祉学部助教授）が「韓国家族構造変化と社会福祉実践の対応：多様性の増加と専門的実践要求」、木原活信氏は、「文化多様性のなかのポストモダン・ソーシャルワークの可能性：現代日本の「無縁社会」、「孤独死」、「自殺」をめぐる現状から」というテーマで、「日本では複雑で多様な文化を内包しているにもかかわらず、表面的にはあたかもモノトーン・カルチャーのごとく振舞われ、集団凝集性や同一性が求められ、異質な文化的マイノティは社会的排除の対象とされ、抑圧を強いられることになる」とい問題提起がなされた。今秋、日本社会福祉学会第60回大会（関西学院大学）での再会を確認して韓国社会福祉学会学術交流シンポジウムを閉じた。

